平成 30 年 4 月 3 日

ところ会　OP-2 行事案内

新河岸川を歩く(その-４)

今回は新河岸河を歩くシリーズとして志木駅から始まり志木駅までの戻りのコースを（約 7km）歩きます。

記

■日　　時：平成 30 年 4 月 12 日（木）　雨天順延

■集合場所：武蔵野線　新秋津駅　改札口前

■集合時間：8 時 15 分

■所沢駅 JR 新秋津発･むさしの号 8：21 乗車➡北朝霞 8：37 着➡朝霞台 8：39 発・川越市行➡志木着 8：41　志木駅東口/東武バス 9：03 ➡桜記念病院 9：14 着予定

■見学場所及び時間：

さくら記念病院前出発(9:25)➡前河岸跡(舟運遺構)➡ 佃堤➡千光寺➡宿氷川神社➡道興准后歌碑➡むじな橋➡天神社➡郷土資料館(一里塚)➡昼食(華屋与兵衛）➡いろは樋の跡➡旧村山快哉堂➡いろは樋の大桝(復元）➡旧西川家潜り門➡下の水車➡いろは樋の大桝➡朝日屋原薬局➡東明寺庚申供養地蔵➡宝憧寺➡馬頭観音文字塔➡志木市埋蔵文化財保管センター➡西川地蔵堂・バス停（昭和新道）･･･東武バス・国際興業バス･･･志木駅東口･･志木➡新秋津➡秋津➡所沢駅（17:30 頃解散）

■昼食：華屋与兵衛　〒353-0002　埼玉県志木市中宗岡 4-7-1

電話 048-475-1878

■見学先簡単ガイド（各種ホームページから）

❑佃堤

佃堤は上流の南畑村（現富士見市）方面から流下する水を防ぐ目的で、正保年中から寛文の始め（１６４４～１６６２）頃に、この地を治めていた旗本岡部氏の家臣白井武左衛門によって築かれたものと言われています。堤は高さ平均 1.2m、延長 1238.8mあり、他の堤とは異な

り８か所の屈曲を持っていました。屈曲を設けることにより、流下する水の勢いを分散させたものと考えられています。現存するのは約 300m のみです。佃堤により宗岡村は水害から免れましたが、上流に位置する南畑村に水が滞留し両町の争いの原因になったそうです。現在佃堤に埋設されているヒューム管は佃堤が役目を終えた後、潅漑用に敷設されたものです。

❑千光寺

千光寺は正式には「青龍山　観音院　千光寺」と号する真言宗智山派の寺院です。天慶四年（９４１年）高野山から来た法印承興が設立し、応徳二年（１０８５年）権大僧都善海が中興しました。本尊は不動明王で室町時代初期の寄木造りの像です。観音堂には３３年毎に開帳される秘仏聖観世音菩薩像が安置されています。また、応永二十五年（１４１８年）に造られ、観音堂で使用されていた**志木市指定有形文化財の鰐口（わにぐち）が保存されています**。鰐口とは社殿や仏殿の軒先に吊るされた銅製の仏具で、礼拝の時に参拝者が鉦の緒（かねのお）で鼓面を打ち鳴らす法具です。

❑宿氷川神社（上ノ氷川神社）

宿氷川神社は、志木市上宗岡にある氷川神社で、上ノ氷川神社とも通称します。宿氷川神社は、千光寺を中興した権大僧都善海が、武蔵国一の宮氷川神社を分祀して承暦 2 年（1078）創建したといいます。明治維新後には村社に列格、明治 22 年に字袋の稲荷神社を合祀したといいます。

社号：氷川神社／祭神：須佐之男命／相殿：奇稲田姫命、大己貴命／境内社：稲荷社／住所：志木市上宗岡 2-2-34

❑天神社

宗岡天神社は、志木市中宗岡にある天神社で、寛永 3 年（1626）江戸**湯島天神**を分祀したと伝えられ、明治 5 年村社に列格したといいます。

社号：天神社／祭神：菅原道真／相殿：天照大御神、春日大神、八幡大神／境内社：伊都岐島神社、稲荷神社、八坂神社、阿夫利神社、水神社、大杉神社、御嶽神社、辨財天社／住所：志木市中宗岡 1-4-36

❑道興准后歌碑

・道興准后

今からおよそ五〇〇年前の十五世紀末に京都から関東にはいり、現在の朝霞・新座・和光・志木を含むかつての新座郡にもやってきて、歌をよんでいる。

道興は、関白のちには太政大臣となる近衛房嗣(このえふさつぐ)の二男として、永享二（一四三〇）年にうまれた。そして、幼いころから出家し、やがて聖護院門跡となった。聖護院とは、聖体（天皇）護持の寺というところから付けられた名だ。また、門跡とは、皇族や上級貴族がはいる特定の寺、またその寺の統括者につけられた呼称である。さらに道興は大僧正に任じられ、准后となった。これ以後、道興は「道興准后」と書かれるようになる。

・道興准后歌碑（上宗岡の千光寺(せんこうじ)近くには、この歌碑がたてられている。）

「むねおかといへる所をとおり侍(はべ)りけるに、夕の煙を見て、**夕けぶり　あらそう暮を見せてけり　わが家々の宗岡の宿**」

夕食をつくる煙が、あちこちから争うように立ちのぼる様子をうたったものだが、江戸時代のようなにぎやかな宿場を想定しては間違いだろう。しかし、集落ができていたことは確かだ。志木市内の地名が文献上に現れた最初のものという。

❑むじな橋（開化橋）

志木高校の側の志木市民総合センターの前を通る道路の北寄りにあります。昔、ここから200mほど北側の深町というところ（現在の上宗岡５丁目）に丸太を並べて土を盛っただけの壊れかかった橋がありました。その下にむじなの親子が住み着き、時には作物を荒らすこともありましたが、村人たちが温かく見守っていたので、その後も長い間住んでいました。そうしたことから、いつからともなく村人たちは「むじな橋」というようになったと伝えられています。

明治３１年、むじな橋は石積みで渡り石を用いた立派なものに架け替えられ、文明開化の時代にふさわしく「開花橋」と名付けられました。

❑郷土資料館

志木市の歴史や民俗資料、文化財などを保存、展示しています。

❑一里塚

一里塚は宗岡小学校の北側の道はかつて奥州街道（甲州道ともいう）呼ばれ、甲州と関東・奥州をつなぐ重要な道でした。この一里塚は奥州街道沿いに設置されたものです。４基の石塔と榎の老樹がありましたが、平成 10 年 8 月 6 日に倒れ、今はその姿はない。

❑いろは樋の跡（いろは橋）

新河岸川に架かるいろは橋の名は、かつてそこにいろは樋という掛樋があったことにちなむものである。寛文二年（一六六二）に完成したこの掛樋は、野火止用水の余水を新河岸川の対岸から宗岡地内に引いたもので、この掛樋によって宗岡地区の水利は格段によくなり、水田が増加した。したがって、いろは樋は宗岡の開発の象徴であった。

❑旧村山快哉堂

明治 10 年(1877)11 月に建築された木造 2 階建て土蔵造りの店蔵で平成 7 年(1995)に解体後、平成 13 年(2001)にいろは親水公園なかすの林（現：村山快哉堂ひろば）に移築復元したもの。店蔵が座売り形式の商形態を残す点、一階中央部分の吹き抜け、鉢巻の 2 段構成、ムシコ窓とその枠回りなど川越の店蔵とは異なる特有の意匠構成が見られ、貴重な有形文化財(建造物)です。

❑いろは樋の大桝

いろは樋とは、野火止用水（伊豆殿堀）を引又（現志木市本町）から対岸の宗岡村に引くために考案された筧（かけひ）です。大枡は用水の水を樋に送り出す勢いをつけるために一度水を溜めておくために使われました。当初は木造でしたが、現存する大桝は明治三十一年（１８９８年）に造られた煉瓦積みのものです。

❑下の水車

しかしながら、説明板が立っているのみで、上の水車跡のようなモニュメントはありません。現在の本町周辺は、かつて引又（ひきまた）と呼ば

れ、江戸時代前期に新河岸川の舟運の発展と共に引又河岸の傍に引又宿が設けられました。この引又宿（現本町１～２丁目付近）には野火止用水が流れ、上の水車、中の水車、下の水車（河岸の水車）と呼ばれる３つの水車がありました。その中で最も古いものが下の水車で、野火止用水筋としても一番古い水車です。

❑旧西川家潜り門

この門は、西川家(本町二丁目　当主西川亨氏)中庭に建てられていましたが、取り壊されることとなったため、市教育委員会寄贈を受け平成８年に解体し、しばらく保存してからこの場所に復元したものです。

門の形式は、正式には棟門といいますが、西川家の中庭に建っていたことから潜り門と呼ばれていました。

建築年代は、武州一揆の刀の傷跡が扉や柱にみられることや伝承などから、慶応二年(1866)頃と推定されます。

❑：朝日屋原薬局

朝日屋原薬局は、明治 20 年代に創業され、明治 45 年に現在地に移転し､店舗併用住宅の主屋を建築した。同時期に土蔵、物置、東雲不動尊を建設｡大正中期に主屋の一部を増築｡昭和７年に洋館、昭和９年に離れを建設している。朝日屋原薬局は、明治大正期に栄えた薬局の典型として貴重な建物群でありる。内部は非公開となっている。

❑：東明寺の庚申供養地蔵

この庚申供養地蔵は寛文七年（１６６７年）二月に造立された地蔵像で光背に「蟇俣村（ひきまたむら）」と刻まれています。引又村（現在の本町地区付近）にこの「蟇俣」の字が使われたのは、当時の新河岸川と柳瀬川の合流地点付近の地形が蟇蛙（ひきがえる）の這いつくばった形に似ていたところからきているとも言われているそうです。「蟇俣」の字が使われている市内唯一の石造遺物であり、大変史料的価値の高いものなのだそうです。志木市の有形民俗文化財に指定されています。

❑：寶幢寺前の馬頭観音文字塔

文政三年（一八二〇）正月に造立され、正面には「馬頭観世音」、左側面には世話人として館村高野萬治郎、引又□三上彌惣治、館村高野三之烝、同村同勘五郎という名が刻まれており、館村の高野氏と引又の三上

氏とで造立されたことがわかります。
　この馬頭観音は、引又宿から大和田へ向かう街道沿いにたてられており、当時、荷物の運搬に使われた馬の供養のためにたてられたものと思われます。
　石仏の規模は、台座も含めると高さが二・〇四メートルもあり、市内では最大のものです。（志木市教育委員会掲示より）

❑：宝幢寺（ほうどうじ）

　真言宗智山派寺院の宝幢寺は、地王山地蔵院と号します。宝幢寺の創建年代は不詳ですが、祐円上人が建武元年（1334）に創建したとも伝えられます。柏の城落城後（1561 年）に当地へ移転、慶安元年（1648）三代将軍家光から寺領 10 石の御朱印状を拝領、末寺を 3 ヶ寺擁していたといいます。
　：山号-地王山／院号-地蔵院／寺号-宝幢寺／本尊-薬師如来像／住所-志木市柏町 1-10-22／宗派-真言宗智山派

❑：志木市　埋蔵文化財保管センター

　埋蔵文化財の収蔵と、発掘調査の拠点施設として、平成 22 年にオープンしました。
　また、収蔵展示室を設け、市内の遺跡から発掘された土器や石器などが年代ごとに多数展示されています。犬の形をした弥生時代の土製品など、全国的に見ても珍しいものも展示されており、志木市の歴史を実感できるような施設となっています。

❑：西川地蔵堂

　柳瀬川と新河岸川が合流するあたり、かつての「引又河岸」市場坂上交差点から志木駅方面へ向かう本町通りは、かつてかなり栄えた宿場町だったということで、現在でも数軒の古い商家が残っている。この本町通り 本町 3 丁目交差点の 50m北、東側路傍に真新しい小堂があり、ここにも大きなお地蔵様が祀られていた。
　蓮台の下の台 正面中央に「奉造立地蔵尊為頓證菩提也」右脇に武州新座郡引又邑左脇に 施主は西川四郎左衛門。台の左側面には年号。中道の子育て地蔵尊と同じ正徳 5 年の造立である。幸町の「大塚延命地蔵尊」(2015.05.27 の記事)も同じ正徳 5 年の造立だった。この地域で三体の大型の地蔵像があいついで造立されたのはなにか理由があるのだろうか？